

保護者各位

予防すべき感染症と出席停止の基準について

理事長 上田 雅裕

園児が下記の感染にかかった場合は、他の園児への感染防止のため、学校保健安全法の規定により出席停止となります。出席停止期間は、欠席にはなりません。病気が治って登園する場合は、登園許可書を医師に記入してもらい、登園の際に幼稚園まで持ちください。

学校保健安全法施行規則

幼稚園で予防すべき感染症の種類		登園停止期間の基準
第一種感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、 ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、 重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る) 鳥インフルエンザ (病原体がインフルエンザウイルスA(H5N1)であるものに限る) ※上記のほか、新型インフルエンザ等感染症、 指定感染症及び新感染症	治癒するまで
第二種感染症	・インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	発症した後5日を経過し、かつ、 解熱した後2日(幼児にあっては、 3日)を経過するまで
	・百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の 適正な抗菌性物質製剤による治療が終 了するまで
	・麻疹	解熱した後3日を経過するまで
	・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発 現した後5日を経過し、かつ、全身状態 が良好になるまで
	・風しん	発しんが消失するまで
	・水痘(水ぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで
	・咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過する まで
	・結核、及び髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校医その他の医師におい て感染のおそれがないと認めるまで
第三種感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス 流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症(感染性胃腸炎・ 溶連菌感染症・手足口病・りんご病・とびひ・アタマジラミなど)	病状により学校医その他の医師におい て感染のおそれがないと認めるまで

※注) 表は基準であって、主治医の証明があればこの限りではありません。

※注) 発熱していたり、発熱していなくても下痢や嘔吐があるなど、普段の子どもの様子と異なるときは、無理せずに園を休ませてください。

登園の判断に迷った時は、主治医にご相談ください。

※注) 「アタマジラミ」について

近年、子どもの間で季節に関わりなく「アタマジラミ」が発生しています。強力な殺虫剤が禁止された後、海外旅行の活発化で海外から持ち込まれたり、暖房器具の発達によって冬にも発生しているとされています。戦後のように、不潔だからではありません。園以外でも、誰でもうつる可能性があります。

万一周りに感染した子どもがいても、不用意にその子を避けたり、心を傷つけたりするような言葉にはお気をつけください。適切な治療を行えば10日ほどで完治します。

予防として、ブラシや衣類、タオルなどの共用を避け、洗髪を十分に行い、スキンシップを兼ねてお子さんの頭皮をまめに観察してください。

アタマジラミへ感染した場合は、必ず園までお知らせの上、皮膚科を受診してください。保護者の方へ駆除をお願いした上で、園が継続して観察や対応を行います。帽子をかぶって通園するなどしながら様子を見させていただきます。

駆除が進まないと判断した場合や医師の指導によっては、登園を控えていただく場合もあります。

《学級閉鎖の基準》

学校教育法や学校保健法では、インフルエンザ等の伝染病が発生した場合、状況に応じて出席停止や臨時休業等の措置をとることができるとしています。学級・学校閉鎖について、学校関係法規の中に基準・規定はありませんが、鷹寺学園では、

『学級・学年における欠席率が20％に達した場合は、学級閉鎖、学年閉鎖及び休園の措置をとる』こととしています。

状況により変わる場合がありますので、園長へ連絡し、指示を仰いでください。

保護者各位

平成28年
理事長 上田 雅裕

幼稚園における投薬等について

投薬は医療行為にあたるため、園でお薬をお預かりして服用させることはできません。

お子さんが病気になられた場合は、完治するまで自宅でゆっくり休養することが望ましく、お子さんの薬の服用についても、保護者の責任において正しく行い、健康管理をしていただくようお願いします。

主治医から登園を許可された後に、薬を服用する必要がある場合は、幼稚園で服用などをしなくてもよい処方について主治医に相談して頂くか、保護者の方が来園し、お子さんに投薬をお願いします。

重度の疾患・アレルギーなどにより、投薬が必要な場合にのみ、やむを得ず園でお薬をお預かりする場合があります。この場合も、医師などの資格を持たない幼稚園の教員が投薬することになるため、保護者の方の責任において投薬を行うこととなります。ご了承ください。